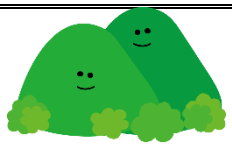
学校教育目標 『気づき　考え　行動する』 ～自分たちの学級・学校は、自分たちでつくる～

小島小学校だより
第１２号

金峰山



令和6年７月１日
文責　小山 恵子

熊本市立小島小学校
www.kumamoto-kmm.ed.jp

国民安全の日

今日、７月１日は「国民安全の日」です。産業災害、交通事故、水難事故、火災等に対する国民の安全意識の高揚等の国民運動展開のために創設（内閣府）されました。昭和３５年５月のことです。

学校では、先週、生活集会を行いました。生活安全委員会の子どもたちが交通事故防止を全校児童に呼びかけ、横断歩道の渡り方について手本を示してくれました。生活委員のお手本を見た後、全員が仮想の横断歩道を渡る練習を行いました。

以前もお伝えしましたが、歩行者用信号は青、車道の信号は赤になっているにも関わらず、信号を無視して通行するドライバーがいます。大人がまずは交通ルールを守らないといけないのですが、子どもたちにおいては歩行者信号が青になってもすぐに歩き出さず、車が来ていないか左右をしっかり確認してから道路を横断してほしいと思います。

自転車の乗り方も心配しています。ノーヘル、狭い道での並走、飛び出しなどを見たという声が、地域の方や本校職員から届いています。また、今日から夏日が続くようで、水難事故も心配されます。

交通ルールをはじめ、様々なルールは「命を守る」ためにあります。家庭でもルールの確認を改めてお願いします。

よさに目を向ける

今年度も市教委主催「日本語大すき」事業で、元アナウンサーの福田浩一さんに、６年生を対象とした「言葉」に関わる講話をしていただきました。

相手のよさに目を向ける大切さ、「ちくちく言葉」よりも「ふわふわ言葉」でよさを伝える大切さを、サッカーのイエローカードやレッドカード、グリーンカードになぞらえて話してくださいました。

四日（木）の授業参観・家庭教育学級講演会・学級懇談会へのご参加をお待ちしております。六日（土）の廃品回収もお世話になります。

＜裏面あり＞

福田さんは現在サッカー大会の実況をしておられるそうです。選手が放ったシュートがキーパーに抑えられ得点に至らないシーンがありますが、そのようなときはその選手の失敗を伝えるよりも、キーパーのナイスプレーや相手チームの守りのかたさなど、よさに目を向け、よさを伝えるよう心掛けておられるそうです。子どもたちの心にとても響いたようです。

以下、６年生の感想を紹介します。

浩一さんの授業を受けて心に残ったことが２つあります。

１つ目は日本語を楽しいと思えたことです。「はい」という言葉にもいろいろな言い方があり、音読する時の会話している文章に心情などを表せることを知れてよかったです。なので、次からの音読も心情などを少しでも表せるといいなと思います。

２つ目はイエローカードか、グリーンカードかのことです。自分はあまりスポーツに興味がなく、イエローカードなどよくわかりませんでした。イエローカードはルールを破る人がもらう物、グリーンカードは人に親切なことをしている人がもらう物です。その言葉を聞いてふり返ると、自分のことでせいいっぱいになって、相手に親切なことができていませんでした。なので、次からは相手が見ていない所でもいいことをして、いいことをしたので自まんなどしないようにします。

今回の授業で言葉だけでなく自分の行動についてもふり返ることができました。今回の授業のことを日常生活で生かしてしていきたいです。これからももっと日本語を楽しいと思えるようにしたいです。

浩一さんの話を聞いて、心に残ったことは、フェアプレーです。野球の動画も見ました。 白熱して、相手に言ってしまうけれど、勝ちや負けにこだわるのではなく、相手のことも考えながらプレーすることで自分も相手も気持ちよくできるし、何より相手がいることで戦えるから、相手にも感謝して、相手からも感謝されるようになるといいことを知りました。

だけど、人には苦手なこともたくさんあるから、苦手な人を責めるのではなく、得意な人が苦手な人を楽しくできる場を作ることも大切なことがわかった

自分を変えようと思ったことは、音読のやり方と、フェアプレーです。

音読のやり方を変えようと思ったのは、学校や家では、気持ちをあまりこめずに読んでいるけど、浩一さんの朗読を聞いて、気持ちをこめて１人１人の役を個性を出して読むことで、それだけで大きな違いがあることを知れたので変えようと思いました。

フェアプレーを変ようと思ったのは、自分はよくドッチボールをするけど、負けたくないから.相手に強く言ってしまうことが多いので、心の中にいつもグリーンカードをもつということ.を聞いて、自分を変えようと思いました。